

(1)令和6年度事業実施計画 総括

子ども読書活動推進会議	社会教育委員会
<p>○新型コロナウイルスの影響も減少し、通常どおりのイベント開催ができるようになった。</p> <p>○図書館では平日の子どもの来館者数や小学校の見学が少ない等の気になる課題はあるが、全体としてはいろいろな読書イベント、地下書庫イベント、親子向けワークショップも開催できた。またSNSも積極的に活用し、イベントの紹介や図書資料の紹介を行っている。フォローは増加傾向にある。一方研修や講座については、対面とオンライン配信を併用して開催するなどの新たな方法での取組も定着してきており、保育関係者などさまざまな方が大勢参加している。</p> <p>○計画期間のまとめに向かって、子ども読書活動推進会議でも現状や課題の確認を行うことができた。まだまだ不読率が高い傾向にあるので、その改善に向けて、「子どもたちと本・読書をどうつなげていくか」を考え、子育てに関わる他部局や外部団体等とついにイベント開催を開催したり、学校に読書につながる取組を働きかけたりと、さまざまな方法で子どもたちの読書推進を仕掛けていけたらと考えている。</p> <p>○多言語読書活動推進事業について、「多言語えほんのひろば」は昨年度の共催市町村を中心に市町村が単独で開催をおこなうことができた。しかし『えほんのひろばセット』の配送の手配やイベント開催の経験がない市町村が開催しにくいなどの課題もある。送付便等で借りやすい仕組みづくりを考えるとともに、開催についての手引きの作成を予定している。絵本紹介リーフレットは計10言語となり、各市町村に配布をおこなっている。</p>	<p>○ビブリオバトル・ポップづくりなど、学校における授業づくりと読書活動をリンクさせ、図書館司書とも連携し、読書活動を進めていくことが重要。また小学生の本に関する発表の場を、社会教育の中で作っていく重要性を感じる。</p> <p>○公立図書館でおこなっている子ども読書の取組みや活動について、データ一覧にして学校に共有していくなど、公立図書館と学校図書館の連携を幅広く進めていくことが必要である。</p> <p>○子どもの読書の重要性に関して、保護者へのアプローチをおこない、親子でさまざまな取組みやイベントに参加できるようにするなど、家庭での読書活動を支援していく取組みについて、様々な発信を続けていくことが重要ではないか。</p>

(2)令和7年度事業実施計画のポイント

1	さまざまな読書活動の場を設定し、全ての子どもにあらゆる方向から読書へのアプローチをおこなう
2	図書館・学校・家庭・地域が連携して、子どもの読書活動推進の取組を進めていく

(3)令和7年度事業実施計画 具体的な取組

重点的な施策	B 具体的方策		C 第1回社会教育委員会	D	E 子ども読書活動推進会議	F	G 第2回社会教育委員会
	発達段階	主な内容	令和7年度 事業実施計画	実績	成果・課題(自己分析)	改善	ご意見
1 読書活動普及・啓発	乳幼児	・えほんのひろば  ・おはなし会	・商業施設等でえほんのひろばを開催(多言語えほんのひろばを含む) ・市町村・学校等へのえほんのひろばセットを貸出  ・府立中央図書館にて、おはなし会を開催	商業施設等でえほんのひろばを開催(多言語を含む) 1 6/21(大阪市 於:まちかど図書館3388)25人 1 7/18(大阪市 於:SARARA HOTEL 心斎橋) 2 10/2(※多言語 熊取町 於:熊取町立熊取図書館)人 3 10/25~11/8(能勢町 於:能勢町生涯学習センター)人 4 11/9(※多言語 茨木市 於:イオンモール茨木ジョイプラザ)291人 5 11/16(※多言語 河内長野市 於:河内長野市立図書館)121人 6 12/17(※多言語 大阪市 於:まちかど図書館3388)人 7 1/25(共催:藤井寺市 於:イオン藤井寺ショッピングセンター)人 (空白については現在報告書提出待ちと未開催)	・えほんのひろばセットを通して、様々な市町村等におけるえほんのひろば開催のサポートができています。市町村立図書館のみではなく、地域で読書活動を推進しているボランティア団体や民間団体にも貸出ができています。課題としては配送の手配ができていないことや、開催時期がどうしても集中してしまい長期間貸出がない状況があるのでもっと活用していきたい。  ・府立図書館でのおはなし会は、来館者が少ない平日水曜日のおはなし会以外は再開実施できています。参加人数も徐々に増えてきています。	・開催市町村が限定されているので、えほんのひろばの手引きができると、もっと様々な市町村で開催してもらえるのではないかと。 ・使われている時期を図書館でも把握できれば良い。 ・学校にもアピールできると良い。市町村によって、どの国を母語とする方が多いかは違うので、言語に分けて貸せるようにすればコンパクトになる。 ・他部局や外部団体との開催イベントも考えていく。	
	小中高	・読書イベント  ・SNSやミニコミ誌等を活用した読書活動啓発	・作家が学校園等を訪問する大阪府オーサービジット事業を実施(府費開催(幼保・小・中・高・支援・フリースクール・矯正施設・児童自立支援施設)計12回) ・大阪府中高生ビブリオバトル大会を開催 ・しおりコンテスト開催の準備(小学生対象) ・おはなし会の実施 ・本のPOPづくりコンクールの開催(中・高) ・府立中央図書館にて、学校等からの見学受入、スクールサービスデーを実施 ・高校生のための図書館講座を実施  ・サンケイリビング小学生新聞(公立小4~6年生に配布)にて読書手法などの紹介記事を掲載(夏・春 計2回) ・XやInstagram等を活用した中高生向け図書資料の紹介	・オーサービジット事業は府費負担は12校、実費負担は25校で実施 ・ビブリオバトル中学生大会1/11、高校生大会12/21 ・おはなし会の実施については上記参照 ・本のPOPづくりコンクールを開催(応募総数1718作品)。 11/22に表彰式実施 ・図書館見学・調べ学習受入(11件:高校0、中学1、小学校3、支援学校3、保育園4)、スクールサービスデー(3件)※いずれも11月19日時点。 ・高校生のための図書館講座がこの開催(1回)※11月19日時点。12月に1件予定。  ・今年度は夏は中央図書館の書庫についての紹介、冬はオーサービジット事業についての紹介を行った。 ・XやInstagramで中高生向け図書資料の紹介(11月19日時点 Instagram:110回)(11月末時点 X:35回)	・オーサービジット事業の応募数は、12校の枠に対して112校あり、需要が高い。実費負担で開催できる学校園を増やしていきたいが、担当者の学校調整等の負担が増えるので慎重に行いたい。 ・ビブリオバトル大会は中学校37校、高校22校のバトラーが参加。今年度は第10回と恒例行事になってきている。これからも長く続けていきたい。 ・小学校からの見学が少なかった。万博見学の影響か。 ・はるみやこども園の見学(おはなし会)は継続(2か月に1度)  ・Xについて、中高生にもっと普及していきたい。 ・情報カードなどの配布を積極的に行っている成果か、Instagramのフォロワーはじわじわ増えている。		
	全体	・「子ども読書の日」「こどもの読書週間」におけるイベント  ・OSAKA PAGE ONE  ・読書活動普及啓発広報物の作成  ・「こころの再生」府民運動と連携した読書活動の普及・啓発	・子ども読書の日(こどもの読書週間)の趣旨に沿った事業を実施(4月23日~5月12日) ・民間事業者等との連携や、庁内放送により、子ども読書の日(周知・啓発)を実施  ・府立中央図書館の地下書庫見学ツアー、街頭紙芝居実演イベント、おはなし会の実施 ・作家さんとのイベント実施(年2回) ・OSAKA PAGE ONEのパナーを作成し、市町村・民間事業者等へHP掲載依頼 ・映画タイアップポスターの作成 ・国際児童文学館が所蔵する国内外の貴重な資料を活用した展示  ・サンケイリビング小学生新聞(教育委員会発行協力、こころの再生府民運動啓発協力)の記事提供協力	・「子ども読書の日」関連イベントを実施(おはなし会、工作イベント等)  ・府立中央図書館の地下書庫見学ツアー(11月19日時点で10回実施)3月まであと4回実施予定、街頭紙芝居実演イベント(11/8実施)、おはなし会(定期的に開催)の実施 ・府立中央図書館HPIにて、OSAKA PAGE ONEのパナーを掲載 ・昨年度タイアップした東宝(ドラえもん映画)様より、今年度もタイアップをお願いしたいと依頼があり、今年度も映画ドラえもんタイアップ予定。 ・企画展示1件、小展示2件、トピック展示6件、カウンター前展示7件、大阪市立中央図書館での出張展示1件(11月19日時点)  ・夏号では『府立中央図書館の地下書庫』についての記事を掲載。春号は『オーサービジット』についての記事を掲載予定(取材済)。			

A		B		C	D	E	F	G
重点的な施策		具体的方策		第1回社会教育委員会議	子ども読書活動推進会議			第2回社会教育委員会議
		発達段階	主な内容	令和7年度 事業実施計画	実績	成果・課題(自己分析)	改善	ご意見
2	乳幼児の時期の保護者や教育保育施設への読書活動支援	乳幼児	・ブックスタートなど、家庭や地域における読み聞かせ活動の支援 ・特別貸出図書セットの充実	・民間事業者の協力を得て乳幼児期のお勧め本リーフレットを作成し、市町村立図書館、保健所へ配布 ・「新子育て支援交付金」の活用について会議にて市町村へ周知  ・教育保育施設の職員等を対象とした読み聞かせ講座等の研修を実施 ・子どもの興味や生活に応じたテーマでそろえた絵本セットの充実 ・府立中央図書館HP「こどものページ」「子どもの読書活動推進のページ」	・教育保育施設の職員等を対象とした読み聞かせ講座等の研修を実施(教育センター研修、支援員養成講座など) ・子どもの興味や生活に応じたテーマでそろえた絵本セットの充実(「ベトナム語(絵本)5 生活2」など) ・府立中央図書館HP「こどものページ」「子どもの読書活動推進のページ」にて情報提供			
3	中高生が読書への興味・関心を高めるためのインターネットを活用した取組	中高生	・府公式X「さあ、本を読もう！」 ・大阪府中高生ビブリオバトル大会の動画配信等 ・オーサービジット事業(中高生向け)の動画配信等  ・「YA! YA! YA! べんりやん図書館」の活用	・毎週金曜日に府公式Xにて主に中高生に向けた本を紹介(・大阪府中高生ビブリオバトル大会の動画配信を実施) ・インスタグラムによる情報発信 ・オーサービジット事業(中高生向け)のSNS等での情報の発信  ・中高生が読みたい本を見つけられるよう様々なジャンルの本を紹介	・11月末時点 X:35回(再掲)  ・インスタグラムフォロワー1,037件(11月19日時点)  ・毎週2~4回、資料紹介及び過去のPOP広場応募作品からのPOP紹介等を発信	・Xについて、中高生にもっと普及していきたい。(再掲) ・ビブリオバトルに関して、図書館でも図書館InstagramやYA向けHPでの広報、関連資料展示等を実施。 ・更新頻度を増やし、情報カードなどの配布を積極的に行っている成果が、Instagramのフォロワーはじわじわ増えている。(再掲)		
4	支援が必要な子どもへの読書環境づくり	全体	・えほんのひろばや読み聞かせなど、支援が必要な子どもの状況に応じた本との出会いを提供  ・障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもに対する読み聞かせ活動の支援  ・子どもの読書活動に関わる支援者に対する研修や講演等  ・特別貸出図書セットの充実及び協力貸出  ・図書館利用に困難がある子どもやその保護者に対するサービス	・「多言語読書活動推進事業」を実施 ・外国語保護者向け絵本紹介リーフレットを配布 ・市町村における多言語えほんのひろば実施の支援 ・府立中央図書館において、手話でのおはなし会を実施 ・府立中央図書館において、支援学校への出前おはなし会を実施 ・視覚支援学校において、サビ工図書館を活用 ・点字図書、デジター図書、LLブック等の更なる充実  ・府立中央図書館において、府内市町村立図書館に対して、支援が必要な子どもへの読書環境づくりに関する実態調査をもとに、要望の多い資料収集や情報提供を継続  ・府立中央図書館において、支援が必要な子どもの読書活動の現状や課題・方策について、子どもの読書活動に関わる支援者に対する研修や講演等を実施  ・現在所蔵している40数ヶ国の絵本の更なる充実と、それらを活用したおはなし会の実施 ・多言語で書かれた本、誰もが楽しめる文字なし絵本等の貸出セットを充実し、学校や教育保育施設、ボランティア等の団体に貸出しを実施  ・郵送貸出や、アプリケーション・ソフトを利用した対面朗読サービス等を実施	・外国語保護者向け絵本紹介リーフレットを配布 ・市町村における多言語えほんのひろば実施の支援 ・府立中央図書館へ多言語えほんのひろばセットの絵本を貸出 ・府立中央図書館において、多言語おはなし会を実施(3回予定、1回目8/10実施済、2回目11/24) ・府立中央図書館において、手話でのおはなし会「楽しい手話」を実施(第2・第4土曜日)。3月26日には手話研修受講の館内職員による「手話でたのしくおはなし会」を実施予定。 ・府立中央図書館において、支援学校への出前おはなし会を実施(11月19日時点で4回実施済、全7回予定) ・点字付きさわる絵本、デジター図書、LLブック等の更なる充実のために購入可能なものは購入 ・視覚支援学校において、サビ工図書館を活用 ・子どもだけでなく大人も対象になるが、手話落語を開催  ・府内市町村立図書館に対しての支援が必要な子どもへの読書環境づくりに関する実態調査は、さまざまなアンケートに項目をまぜたり、連絡会などにおいて聞き取りで調査を行う予定。  ・読書活動推進支援員養成講座を実施(2回) ・公立図書館と学校との合同研修「図書館で学ぶ探究学習を体験!『なんでも学べる学校図書館』清教学園リブラリアの実践から」を実施  ・ベトナム語絵本1セット用意 ・朝の読書用セットYA(中高生)用 2セット用意 ・朝の読書用セットYA(高校生)用 1セット用意(予定) ・統計、福祉・バリアフリー、伝統芸能 等セット用意(予定) ・特別貸出用図書のベ125セット貸出、アジア絵本のベ4セット貸出 11月19日時点  ・図書館利用に困難のある子どもに対して郵送貸出等を実施(実績9件16点)11月19日時点	・多言語読書活動推進事業では、10言語のリーフレットとえほんのひろば用図書が用意できているので、さらなる活用方法を見出していくことが課題。 ・府立中央図書館での多言語おはなし会は、大学の先生や日本語教室の協力などを得ながら実施。日程調整やボランティア確保が困難な時期がある。  ・手話でのおはなし会「楽しい手話」には、当事者の参加のほか外国籍の家族の参加実績もあり。館内職員向け手話研修・初級参加者によるおはなし会「手話でたのしくおはなし会」を継続実施予定。 ・支援学校への出前おはなし会は、東大阪支援学校へ各学期ごとに1回計3回、中央聴覚支援学校へは小学部2回幼稚部2回の全7回を実施予定。(11月19日時点で4回実施済)  ・点字付きさわる絵本、デジター図書、LLブック等の更なる充実のために購入可能なものは購入している。多様な言語の絵本なども可能な範囲で入手をはかっている。  ・多言語絵本等外国語資料の入手自体が言語によって難しい。価格の高騰は続いている。		

A		B		C		D		E		F		G	
重点的な施策		具体的方策		第1回社会教育委員会議		子ども読書活動推進会議		子ども読書活動推進会議		改善		第2回社会教育委員会議	
		発達段階	主要内容	令和7年度 事業実施計画		実績		成果・課題(自己分析)		改善		ご意見	
5	子どもに本を届けるネットワークの整備	乳幼児	・ボランティアとの連携支援 ・特別貸出用図書セット(絵本)の貸出	・府内で活動されている読書ボランティアの情報収集を行い、教育保育施設等に対して、読み聞かせボランティアを一覧にして紹介・周知 ・特別貸出用図書セット(絵本)を貸出	・貸出を実施(62セット)※絵本含むのみ								
		小中高	・ボランティアと学校の連携支援 ・特別貸出用図書セット(朝読・調べ学習等)の貸出 ・学校図書館(「学習」「情報」「読書」センター機能)の活用促進	・府内市町村に対し、状況に応じてボランティアとの連携を進めるよう助言 ・特別貸出用図書セット(朝読・調べ学習等)を貸出 ・読書活動フォーラム、学校図書館担当指導主事会を実施 ・言語能力をはぐくむモデル校に対する研修支援 ・「大阪府情報活用能力ステップシート」に基づいた、授業実践事例やモデル校の取組み内容がわかる資料を作成し、Webページに掲載 ・言語能力をはぐくむモデル校の取組みの普及、発信	・令和6年度市町村教育委員会に対する指導・助言事項にて助言 ・貸出を実施(のべ7校、32セット)※朝読・調べ学習セットのみ ・学校図書館担当指導主事会を実施(1回) ・フォーラムにて、モデル校事例発表(予定) ・モデル校への有識者派遣を実施 ・学校図書館を活用した授業実践事例やモデル校の取組み内容がわかる資料を作成し、Webページに掲載 ・R7年2月に貸出した「府立学校に対する指示事項」にて「学校図書館活性化ガイドライン」をふまえた学校図書館の活用を指示	・学校への貸出については、配送が課題。 ・言語能力をはぐくむモデル校の取組みを20校で実施。有識者にもたずさわっていた。 ・モデル校における不読率は減少しており改善されている。 ・学校図書館を活用し、言語能力をはぐくむ授業実践の事例が充実した。また、「大阪府情報活用能力ステップシート」に基づいた取組みの資料についても発信し、図書館活用スキルを身に付けるための体系的な指導の具体を示すことができた。							
		全体	・人材育成 ・読書活動支援者に対する読書関連講演や好事例の紹介 ・おすすめ本紹介冊子の作成 ・特別貸出用図書セットの貸出 ・ネットワークづくりの強化	・大阪府子ども読書活動推進ネットワークフォーラム、調査研究成果報告会を開催 ・小学校読書活動推進研修を実施 ・ビブリオバトル研修の実施 ・学校図書館担当指導主事会を実施 ・児童サービス担当者連絡会を実施 ・市町村子ども読書活動推進担当者の連絡会の実施 ・司書セミナーを実施 ・ボランティア養成講座等を実施 ・府内の図書館職員等のスキルアップに役立つ講座等を実施 ・府立中央図書館において、「新刊紹介」講座を実施 ・「だっこでよんで」「よんでよんで」「ほんだな」等を作成 ・図書館未設置自治体公民館図書室、地域型保育病院内患者図書室、児童福祉施設、矯正施設等への貸出支援を実施 ・学校図書館協議会(SLA)との連携(情報共有等) ・府教育庁からの府内公立図書館への情報発信 ・教育コミュニティづくりに関わる団体等への子ども読書活動推進に関する情報発信	・公立図書館と学校との合同研修において、図書館で学ぶ探究学習を実体験する研修を開催(7/25 51名参加、後日配信192名) ・ビブリオバトル研修の実施(8/1 79名参加) ・児童サービス担当者連絡会を実施(3/4) ・司書セミナーを実施(5回 ※全回でリアルタイム配信) ・ボランティア養成講座等を実施(支援員養成講座2回) ・府内の図書館職員等のスキルアップに役立つ講座等を実施(合同研修3回うち録画配信2回、読書活動に関する出前講習4回うち1回終了) ・府立中央図書館において、「新刊紹介」講座を実施(会場125人(140人申込)、配信746人) ・ほんだな2025の発行(6月末) ・一般財団法人(隣保館運営者)による継続利用、矯正施設2施設へ特別貸出用図書セットを貸出(のべ28セット)	・清教学園で実施している「はじめての探究学習」についての実践研修を開催し、たくさんの方に参加いただいた。大変好評だったので、今後も続けていきたい。 ・ビブリオバトル研修は毎年多数の応募があり、今年度は抽選となった。広い研修場所の確保が課題。 ・司書セミナーではリアルタイム配信を活用し、来館せずとも参加しやすい環境を整えている。 ・新刊紹介は会場講演と後日配信が定着、配信があることで会場講演と日程が合わない場合も情報を取得してもらえる。 ・「ほんだな」を夏休み前に毎年発行 ・図書の貸出により、児童福祉施設や矯正施設における読書環境の充実を図ることができた。							
6	子どもの読書活動を進めるための組織の設置	・子ども読書活動推進会議を設置し、毎年後事業計画の内容を検討	・子ども読書活動の推進に取り組む関係各課(小中学校課・高等学校課・支援教育課・中央図書館・地域教育振興課)による子ども読書活動推進会議を開催 ・市町村子ども読書活動推進担当者の連絡会の実施(再掲)	・子ども読書活動の推進に取り組む関係各課(小中学校課・高等学校課・支援教育課・中央図書館・地域教育振興課)による子ども読書活動推進会議を開催し、読書計画等について協議 ・市町村子ども読書活動推進担当者の連絡会の実施(①9/11 於:大阪府庁 25名)(②2月実施予定)	・市町村子ども読書活動推進担当者の連絡会は今年度は2回の実施。1回目には昨年度提出いただいた各市町村図書館の子ども読書推進活動の報告書を好事例集として配付した。								
7	電子書籍の活用検討	・電子書籍の活用検討	・府立中央図書館において、電子書籍の活用に関する情報収集及び府内市町村図書館との情報共有並びに無料デジタルコンテンツを紹介	・電子書籍サービスの導入状況について府城市町村図書館へのアンケートを実施予定(12月、R元度からの継続調査)。当館デジタルコンテンツをInstagramにて紹介など。									

(4)令和7年度事業実施計画 総括

子ども読書活動推進会議	社会教育委員会議
<p>○図書館では今年度も子どもの読書活動推進のための取組みをさまざまな視点で行ってきた。乳幼児のためのおはなし会や子どもの読書イベント等おはなし会は、参加者も増加傾向にあり、水曜日以外は実施できている。中高生向けのイベントの1つにPOPコンテストがあるが、今年度も多くの作品の応募があり、学校として取り組んでいるところも見られるようになった。SNS(Instagram)も積極的に活用し、Instagramによる情報発信の更新頻度を増やし、本の紹介とともに情報カード等の配布をおこなってきた。その成果がフォロワー数の増加として表れている。研修や講座については、昨年度に引き続き、対面とオンライン配信を併用して開催する取組も定着し、さまざまな方が大勢参加している。また新たに探究学習の研修を開催したが、教員の先生方にもっと知ってほしいので、次年度以降も引き続き開催したいと考えている。</p> <p>○学校においては、ギガスクール構想が重要視されているが、今改めて学校図書館の大切さや使い方を伝えていくことが重要と考える。府内の小中学校の言語能力をはぐくむモデル校においては、学校図書館を活用したさまざまな読書活動推進の取組みを行っており、不読率が減少しているという成果が見られた。そして読書とともに、端末だけではなく図書を使った探究学習の推進についても進めていきたい。計画策定のために、府内の小中学校・府立学校等を見学し、話を聞いてきたが、学校図書館を活用して読書や探究学習を進めている学校は、不読率や学力という点においても成果が見られるということが分かった。しかし、府立図書館も地域の図書館も、学校への図書貸出における配送手段という点で、思うように取組みが進まないという課題を抱えていることが分かったため、今後手立てを考えていくことが必要。</p> <p>○支援が必要な子どもへの読書環境づくりでは、サピエ図書館の活用や手話でのおはなし会など、必要な支援を行いながらさまざまな取組みを進めてきた。多言語読書活動推進事業においては、10言語における絵本紹介リーフレットを各市町村に配布している。また「多言語えほんのひろば」は今年度もいくつかの市町村において開催をおこなうことができた。年々増加する外国にルーツのある子どもたちのために、もっと多くの市町村で開催できるよう支援していきたい。</p>	